

例会日:毎週木曜日 18時30分 例会場:関観光ホテル 住所:岐阜県関市池尻 91-2

事務局:岐阜県関市下有知 1655-1 山田ビル 1階D室 TEL(0575)24-7332 FAX(0575)23-5278

会長 森 敬 副会長 川上 勉 幹事 石原 妙生 クラブ会報委員長 後藤 政之



世界に希望を生み出そう

2023~2024 年度 関中央ロータリークラブ会長テーマ

「親睦から生まれる奉仕の心、奉仕から広がる友情の輪、  
そして共に成長し合おう」

第 2136 回  
2024 年 4 月 4 日(木)

本日のプログラム

3RC 合同花見例会

担当: 会長・幹事

ホスト 関中央RC

前例会の記録

第 2135 回 2024 年 3 月 28 日(木)

C. A 会長エレクト研修セミナー報告

担当: 次期会長・次期幹事

\*ロータリーソング「我等の生業」斉唱

\*会長あいさつ 森 敬 会長

こんばんは。前回の例会は職業奉仕委員会の担当で職場例会を行いました。平日の昼間にも関わらず参加して頂いた皆様、大変お疲れ様でした。長谷部 貴司 職業奉仕委員長の事業所である協和コンクリート様の工場見学をしましたが、大変良かったです。協和コンクリート様の工場を見学するのは初めての事でしたが、若い社員が案内してくれて製品の説明や設備についてお話し頂け大変勉強になりました。各分野の専門の技術者がおり、詳しく教えて貰え異業種であります勉強になる事がたくさんありました。協和コンクリート様は定年退職制度がなく、以前はご年配の社員さんが多くおられたイメージが強くありましたが、比較的若い社員さんが多くおられ社員教育が行き届いている様



に思えました。今回、クラブ会員の工場見学となりましたが勉強になることが多く他の会員の事業所も見学したいと思いました。当クラブ会員は優良な事業所が多く、各会員においても学ぶことが多くあると思います。職場例会、そして会員卓話をもっと多く行って頂きたいと思えます。また、先週は現・次期委員長会議がございました。各委員長には次年度についてお話し頂き、本日は会長エレクトによる会長エレクト研修の発表があります。いよいよ来期が近づいて来た様に実感しております。しかし、まだ残り3ヵ月あります。来週は3クラブ合同の花見例会があります。当クラブがホストクラブとなります。次月の5月は東海北陸道グループゴルフコンペもあり、これも当クラブがホストクラブとなります。たくさんの会員の皆様に参加して頂き、ホストとしてご協力頂きます様に宜しくお願い致します。

\*C. アッセンブリー

会長エレクト研修セミナー報告

大藪 太 会長エレクト

令和6年3月24日、国際ロータリー

第2630地区会長エレクト研修セミナー(PETS)が、名古屋の名鉄グランドホテルで開催されました。午前10時



から登録受付、10時30分開会セッションがガバナーエレクト亀井 喜久雄 氏による点鐘で始まり、国歌斉唱、奉仕の理想斉唱と続きました。その後、亀井ガバナーエレクトによる特別出席者紹介、的場次期地区代表幹事による次期ガバナー補佐、次期地区委員会委員長紹介がありました。続いて篠原ガバナーによる挨拶・地区現況報告があり、その中でロータリーの基本は各クラブであり、地区は各クラブの応援団である、地区は各クラブが元気になること、活性化していくことをうれしく思いますと言われました。統計では、入会后3年未満で退会するメンバーがとて多く、ロータリーの理念も分からず、すばらしさも分からずにやめていくことは、とても残念であり、もったいないと思います。またある統計では、退会する理由の多くが、「ロータリーに入ってもロータリーの話が聞けない、ロータリーの楽しさや良さが分からない」というものだそうです。会長の挨拶はとても大切であり、目的の1つは会長の挨拶を聞くことである。ということで時々ロータリーの話をして頂きたいということですので、私も時々ロータリーの話をしように思います。そして地区での各セミナーに出られた方の発表の場を設けることが、クラブの活性化に繋がるということを言われましたが、当クラブでは以前より各委員長に発表していただいていますので、今後も発表の場を設けていきたいと思います。続いて地区の現況報告をされ、能登半島沖地震の義援金を各クラブにお願いしたところ、第2610地区能登半島沖地震義援金支援室に2630地区より4,427,866円を3月早々に送り、また国内34地区合計では1.8億円ほどに達しました。それから昨日現在の地区内クラブ数は73クラブ、衛星クラブが1つ、ローターアクトクラブが6つで合計80クラブになります。2月末現在の会員数はロータリアンが3138名、そのうち女性は207名で、ローターアクトが58名です。そして今、新クラブ推進委員会が頑張っており、現在進行中ですが仮称「三重岐阜イーテラスロータリークラブ」が5月設立を目指しており、20名以上ということであと少しです。次に RI 国際ロータリーの現況報告をされ、2019年から2024年度まで5年間のビジョン声明「私たちは地域で世界の中で、手を取り合って行動する社会を築き上げましょう」という文章と4つの行動計画が5年間を終え、2024年から2025年度からは3年サイクルの行動計画

に則った地域や地区のクラブ運営が推進されます。今年度の RI 会長ゴードン・マッキナリー、次年度のステファニー・アーチックも言っていますが、大事なものは continue、継続することだということです。次年度2025年から2026年度からは従来の RI 会長テーマのロゴの代わりに、行動計画主導の RI 会長のメッセージが作成されます。しかしテーマが無くなるのではなく、何らかの形で残すことになりそうです。要するに単年度ごとにテーマが変わるのではなく、3年サイクルの行動計画が作成されるということのようです。これから少子高齢化に伴って生ずるロータリーの変化の方向性を認識して具現化することが求められています。その一方でロータリアンの繋がりを維持する為に継承されてきたロータリーの価値観を改めて確認するよう求めていくということです。続いてガバナーノミニエ玉野秀美さんの挨拶がありました。玉野さんは桑名北ロータリー所属で2017年入会、ロータリー歴は17年で、昨年クラブ会長を終え、今年2月に指名委員会から指名されたそうです。日本中で最後に決まったノミニエということで、出遅れましたが、亀井ガバナーエレクトを支え2630地区のために努めていくと述べられました。続いて第1セッションがあり、我々会長エレクトは亀井ガバナーエレクトの RI テーマ、地区活動方針を聞きました。まず RI テーマの話は、ロータリーは3つの要素で構成されている、1つめは RI(国際ロータリー)、2つめはロータリー財団、3つめはロータリークラブです。1月にオランダに於いて国際協議会が開かれ、そこでガバナーの資格を得られたそうです。次期 RI 会長はステファニー・アーチックという女性で、イメージ的には堅い方であり、就職希望が CIA か FBI を希望されていたそうで、国歌に対する忠誠心が強い方だそうです。彼女が言うには、「地区が過去50年間に同じ方法で物事を行ってきたのであれば、おそらくそれを見直すときが来ているでしょう。行動計画はクラブの強みと弱み、改善点を特定するために役立つものです」と言い、変化を求めています。タイプの異なる人であっても、DEIを受け入れれば、共通の目的のために結束しやすくなるとしています。ここでいう DEI とは、D(ダイバーシティ)多様性、E(イクイティ)公平性、I(インクルージョン)包括性です。来年度のロータリーのテーマは「Magic Of Rotary」であり、ロータリーの

マジックの語源は、彼女が数年前ドミニカ共和国で浄水器の設置を手伝っていたときに、浄水器の片方から汚い水が入り、反対側から透明な水が出てくるのを2人の少年が見ていて、「もう一度魔法を見せて」と言ったことだそうです。RI 会長として何を最優先しますかと聞かれたときに「会員増強を推し進めることが私の最優先課題」と答えたそうです。亀井ガバナー補佐も「よく量より質と言われますが、量無くして質の議論が出来るのだろうか」と言われ、会員増強の大切さを述べられました。RI 会長の好きな言葉として「イエスと言おう、考えるのはそれから」ということをよく言われるそうです。ノーというのは「ノープロブレム(問題ない)」の時だけのようです。続いてロータリーの CEO ジョン・ヒューコの紹介をされ、彼はウクライナ人であり、ハーバード大学を卒業した後、オックスフォードに留学しています。大変優秀な人物であり、アメリカの国の機関で働き、その前にはウクライナの憲法の素案の作成にも関わっていたそうです。彼も「クラブに新会員が入会してこないのは、我々が適応と変化に苦勞しているからであり、会員のニーズと期待に添った体験がクラブで出来るようにする必要があります」と言ってみえます。続いて決議2334の話がされました。決議2334というのは1923年の中の提案のナンバーが34番だったものです。何度も決議要覧から外すという議論がありましたが、日本で良い結果を出しているということで残してきました。日本人ロータリアンのパイブルのようなもので、社会奉仕に対する理想を挙げています。内容は「ロータリーは基本的には1つの人生哲学であり」ということから入り、RI とクラブとの関係を示すものとして「RIは奉仕活動の有益な示唆を与えることはあっても、どんなクラブの奉仕活動を命じたり、禁止したりしてはならない」としてクラブの自治権を謳っています。次に地区方針の話になり、地区方針テーマとして「地域にインパクトを」を挙げられました。インパクトというのはガバナーエレクトの解釈として、「地域に継続的に良い変化を与えること」であり、地域が何を求めているかをアンケートして、それを敏感に察知してクラブの活動に反映して欲しいといわれました。事例として、こども食堂の実施や、貧困家庭の救済を挙げられ、そういう家庭で育った子供が結果として将来ロータリアンとなり、奉仕活動を行うようになっていただきたいということです。昼

食をはさんで午後から第2セッションがあり、「ロータリーの奉仕の理念とクラブ運営」というテーマで、高橋直前ガバナーが話されました。ロータリーというのは只の奉仕団体ではなく、人を育てるという教育的要素を持つという側面を持っており、更にロータリー活動の根底には奉仕の理念がなければならないということです。人に寄り添い、人のために役立ちたいという心を養い、奉仕の実践を通して、道徳心を持った真のロータリアンを育てることが大切です。以前は職業奉仕の理念と実践こそがロータリーの特徴でしたが、近年は職業奉仕にはほとんど関心を持たなくなり、ひたすら戦略計画の遂行に突き進んでいるように見られます。今では RI が行う活動は人道的なものとなり、ボランティア組織化の一途をたどっています。このままではロータリーの本質が失われそうだと危惧されていました。ロータリーの奉仕の理念ですが、1つめは「超我の奉仕(service above self)」これは奉仕の実践を謳ったものであり、社会的人道的奉仕活動に関する理念です。2つめは「最もよく奉仕するもの、もっと多く報いられる」であり、職業奉仕活動に関する理念です。その後ロータリーが誕生した時代背景から現在までの経緯などを、歴史をたどりながら話をされました。続いて次期職業奉仕委員長・菅内章夫氏による「職業奉仕は、理念と実践と例会」というテーマです。内容は高橋直前ガバナーの話とほとんど重複するということで、それ以上のことは話されませんでした。職業奉仕の実践ということで、昨年の地区大会での千玄室大宗匠の講演の紹介などをされました。続いて第3セッション、浦田パストガバナーによる講演「クラブの活性化」がありました。世界のロータリー会員数は概ね120万人で推移しています。日本は2003年の13万人がピークで、それから減り続け現在は8.7万人。地区の委員長の中には会員減少を心配して「井の中の蛙会」を作ろうということを言う人がいます。井の中の蛙大海を知らず、この大海と退会を掛けたものですが、退会者を出さないようなクラブ運営が大切だと言うことです。そしてロータリークラブは魅力的で価値ある例会を開催する責務がある。会長は魅力的な例会を開くことに全集中をする、最も大切なロータリーの究極の目的とは、すばらしい真のロータリアンを育て増やすことであると述べられました。次に亀井次期会員増強委員長による

講演「会員満足と会員維持」です。この亀井さんは会長エレクトの亀井さんとは別の人です。次期委員長は各クラブ2名以上増強の使命を帯びており、73クラブ146名の純増を目指されるそうです。2月末の地区の会員数は3138名であり、そのうち女性が207名ですが2022-2023年度は純増13名にとどまっています。このまま推移しますと10年後には30%が80歳以上、20年後には54%が80歳以上になってしまいます。各種団体の会員数はライオンズクラブが世界で143万人、JCが16.5万人、日本 YEG が3.25万人でどの団体も増えている状況ではないそうです。亀井さんがロータリーを続けることが出来たのは4つのテストのおかげだと言われました。4つのテストというのは4方向から見る1つのテストであり、1つの物事を4つの面から見て1つの判断をするということで、4方向に通じる1つのテストだということです。全ての行動を4つのテストに照らし合わせて行動することが大切だと言われました。会員満足に関しては、マズローの5段階欲求、人間は「1つ下の欲求が満たされると次の欲求を満たそうとし、絶えず自己実現に向かって成長する」という説明をされ、会員というのは何かを求めてクラブに入ってくるので、その人の欲求を達成してあげられないと会員満足がはかれないので、ぜひ達成して欲しいと言われました。次に第4セッション、公共イメージと認知度の向上というテーマで田山パストガバナーの話です。一般の市民の人に対しての認知度としては、ロータリーはライオンズクラブに少し負けているという気がすると言われました。ロータリーの認知度が高まり、公共イメージが良くなることが会員増強にも繋がるので、会員自身も公共イメージが良くなることで自信を持つ、そういう流れを作ることが大切であるということです。そのためには SNS の活用が大事であり、Facebook, X, Instagram, Tik Tokなどで情報発信することが大切だと言われました。同じテーマで近藤次期公共イメージ委員長の話があり、2021年のロータリークラブの認知度調査で、東京エリアでは57%、大阪エリアでは60%（大阪エリアでのライオンズクラブの認知度は70%であり、その差10ポイント）、認知度を深めるためにも外部への発信を行う公共イメージ委員会の設置も検討されたいと提言されました。ロータリー活動に対するイメージ調査では、会員同士の交流45%、

ボランティア活動35%で、ポリオ撲滅に関しては2.6%の人しか知りませんでした。公共イメージ向上のためにはやはり情報発信が大切であり、SNS によるものが簡単で早くできるので活用して欲しい。またホームページはロータリアン向けのもの、一般向けのものに分けて情報を掲載すると良いと言われました。休憩をはさみ、第5セッション、加瀬次期ロータリー財団部門委員長が話をされ、国際ロータリーの使命、ロータリー財団の使命、委員会構成、活動内容、寄付金の流れと種類、目標額の説明をされました。また補助金の対象となる事業、補助金の仕組み、奨学金について、災害救助補助金について説明があり、更にロータリーカードの推進、ポリオ根絶について話をされました。第6セッション、最初に研修委員会、岩田次期研修・学習委員長です。会員増強の「増」は増やすこと、「強」はクラブを強くすることを意味します。この「強」を補足するのが「研修」であり目的です。地区研修委員会はこのようなクラブの活性化を応援します。クラブ研修リーダー育成のため、年2回セミナーを行っていることの説明があり、会長の挨拶の中で社会情勢や経済の話に次いで、ロータリーの話も入れていただきたいと言われました。次に奉仕プロジェクト部門、勝川次期奉仕プロジェクト部門委員長の話です。奉仕プロジェクトには3つの柱があり、社会奉仕、国際奉仕、そして次年度から加わる青少年奉仕です。新しく加わる青少年奉仕委員会はまだ勉強の途中であり、何をどうするかが雲をつかむような状態であるが、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕の垣根を取り払い、何が青少年育成の為になるか模索していきたいとのことでした。次に国際奉仕、太田次期国際奉仕委員長です。グローバル補助金事業について説明され、地区財団活動資金と国際財団活動資金を活用することにより、自己資金の20倍位の事業が可能になるので利用して欲しいと言われました。続いてグローバル補助金の対象となる事業、使用状況、利用の仕方、申請に当たっての注意点などを説明されました。次に社会奉仕、佐野次期社会奉仕委員長です。世界社会奉仕補助金の名称が昨年、奉仕プロジェクト補助金に変更されました。社会奉仕委員会3つの活動の説明をされ、その1、「奉仕活動を共有し切磋琢磨」ということで、各クラブ社会奉仕委員長と地区奉仕委員会が連絡を取り合い、ホームページに活動を

掲載してクラブ間で連絡が取れるようにする。その2、「子供の居場所づくり事業」として、子供食堂や学習支援室などにロータリーが協力者になれるよう委員会が行政と連携をして、支援団体と各ロータリークラブのコーディネーター役を努める。その3、各クラブの例会で卓話を通じて活動を伝える。というものでした。次に新クラブ推進、高井新クラブ推進小委員長です。新クラブとは新しいタイプのクラブのことであり、現在設立に向けて作業中の仮称「三重岐阜イーテラスロータリークラブ」の紹介があり、現在毎週水曜日夜7時から7時45分までプレオープン例会をしており ZOOMで見ることが出来、ID7178258255、パスワード無し、と説明がありました。続いて衛星クラブについて説明があり、衛星クラブは本クラブの内部クラブとして設立するものであり、衛星クラブと新クラブの違い、衛星クラブの活用例、設立までの流れなどの説明がありました。次に DEI 推進、野原 DEI 推進小委員長です。DEI とは、多様性、公平性、包括性であると説明され、奉仕と実力のある人は誰でもロータリーに属しています。たとえ地元クラブの典型的な人と異なるタイプの人であっても、DEI を受け入れれば、共通の目的のため結束しやすくなります。力を注ぐことで、ロータリーは最も効果的で時代に即した存在になることが出来ると言われました。次にローターアクト、矢野次期ローターアクト委員長です。ローターアクトがロータリーとアクションと言う言葉を合わせたものであるという説明、現在は年齢の上限が撤廃され、18歳以上になったことの説明をされました。RI が言う会員とは「ロータリー」と「ローターアクト」を指し、2022-2023年度からは RI 人頭分担金を支払うことになったことの説明や、各地でのローターアクトの活動の紹介がありました。次に青少年交換、河人次期青少年交換委員長です。青少年交換プログラムの仕組み、海外クラブへの派遣状況、受け入れ状況、派遣・受け入れクラブ、地区青少年委員会の役割、年間活動、募集の内容などの説明がありました。次にインターアクト、今津次期インターアクト委員長です。インターアクトの説明、目標、活動の紹介、スポンサークラブとの関わりの説明などがあり、2630地区での年間活動事業の紹介がありました。最後に米山記念奨学、長谷川次期米山記念奨学委員長です。奨学金が日本独自の事業であることの説明、その

目的が当初の救貧目的の奨学金から人的投資目的の奨学金になりつつあることの説明がありました。そして奨学金の仕組み、地区米山記念奨学委員会と世話クラブの関係、世話クラブと米山記念奨学生との関係の説明があり、次年度の事業計画について話をされました。休憩をはさんで、次期ガバナー補佐と会長エレクトとの懇談がありました。東海北陸道グループの次期ガバナー補佐、各務原ロータリークラブの小林 幹男 氏を中心に、どのようにしたら女性会員に入会してもらおうかが出来かななどの話をしました。懇談終了後閉会セッションがあり、地区大会について、名張ロータリークラブの中島次期地区大会実行委員長の説明、同じく名張 RC 広野次期地区会計長の話、亀井ガバナーエレクトによる修了証書授与、事務連絡と続き、点鐘で終了しました。セミナー修了後、会場を移動して懇親会になりました。最後になりましたが、次年度の関中央ロータリークラブのテーマを「奉仕の実践を通じ、求められ、必要とされるロータリアンに」とします。亀井ガバナーエレクトの話にもありましたが、地域が何を求めているかを察知して、クラブの活動に反映することが大切であると思われます。当クラブで行っている農業体験事業、森林整備例会などは正に地域で感謝されているものであり、これに参加した子供達が奉仕活動に興味を持ち、将来のロータリアンになっていただくことが理想だと思います。そのためにも奉仕を通じ、地域に根ざした活動を行うことが大切だと思い、このテーマにしました。

#### \*出席委員会

会員数28名、本日の出席16名です。

#### \*ニコボックス委員会

・会長、副会長、幹事

本日は会長エレクト研修の報告です。大藪会長エレクト御苦勞様です。報告を楽しみにしています。

16名のご投函ありがとうございました。

#### <次例会の案内>

第 2137 回 2024 年 4 月 18 日(木)

C.A 地区研修・協議会報告

担 当：次期会長・次期幹事